

TOYOTOMI 取扱説明書 (保証書付き)

裏表紙に付いています。

ご注意

使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って点火してください。
しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。

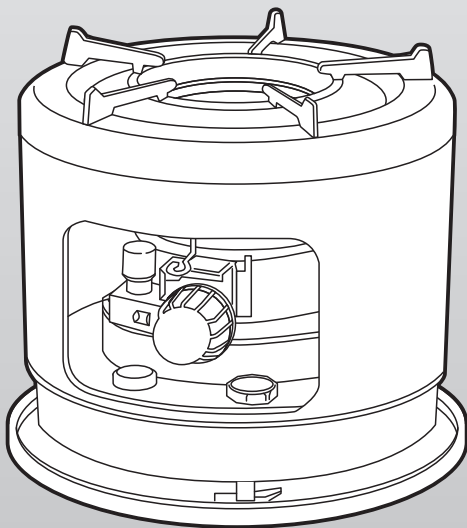
トヨトミ

型式 **K-324**
0703

石油こんろ

このたびはお買い求めいただきまことにありがとうございます。

- ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、大切に保管しておいてください。
- この製品は日本国内専用ですので、日本国外では使用できません。
また、アフターサービスもできません。



製品アンケートにご協力ください

製品アンケートはこちらです。
<https://www.toyotomi-support.com/published/questions>
※通信料などはお客様のご負担になります。



目次

① 安全のために必ずお守りください	1~3
② 使用する場所	3
③ 各部のなまえ	4
④ 使用前の準備	5~7
こんろを取り出す	5
燃烧筒をセットする	5~6
置台に固定する	6
燃料	5~6
給油のしかた	7
点火前の準備と確認	7
⑤ 使いかた	8~10
点火のしかた	8
炎の調節のしかた	8~9
消火のしかた	10
⑥ 安全装置	10
⑦ 日常の点検・手入れ	11
※しんの手入れ(から焼きクリーニング)	10~11
⑧ 定期点検	11
⑨ 故障・異常の見分けかたと処置方法	12
⑩ 部品交換のしかた	12
⑪ 保管(長期間使用しない場合)	13
⑫ 廃棄するとき	14
⑬ 仕様	14
⑭ アフターサービス	14
保証書	裏表紙

お使いになる前に

使いかた

お手入れ・保管

危険

 GASOLINE

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油
KEROSENE ONLY

注意

変質した持ち越し灯油
使用厳禁

警告






換気必要
1時間に1~2回



衣類乾燥厳禁
寝るとき消火
給油時消火

1 安全のために必ずお守りください

- お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
- ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されています。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の「お願い」、「お知らせ」事項は、本製品を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

危険(DANGER)

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。(燃料 5・6ページ参照)





ガソリン使用禁止

警告(WARNING)

★換気必要

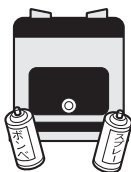
- 換気せずに使用しつづけないでください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
- 換気する場合は、換気扇を使用したり(換気扇を使用する場合は、離れた位置の窓を開けないと十分な換気ができない場合があります。)2箇所以上の(風の出入りのある)開口部を設けると効率よく換気できます。窓が凍結していたり、地下室などで換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。



換気

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、こんろの上や周囲に放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



禁止

★給油時消火

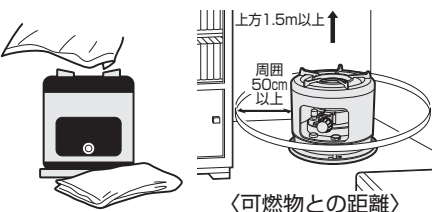
給油は、必ず消火していることを確認し、こんろの温度が充分に下がってから、他に火の気がない所でおこなってください。火災の原因になります。



消火

★可燃物近接厳禁

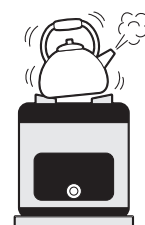
- カーテン、布団、毛布などや燃えやすいもののそばでは使用しないでください。火災の原因になります。
- 可燃物とは図に示す距離を確保してください。



禁止

★空だき厳禁

なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。空だきすると内部に熱がこもって火災の原因になります。



禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が乾燥すると、こんろの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。



禁止

★可燃性ガス使用厳禁

こんろを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。



使用禁止

★寝るとき消火 ※外出するとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることをご確認ください。また、人目の届かないところでは、使用しないでください。火災など予想しない事故が発生するおそれがあります。



消火

★置台を外したまま使用しない

敷物で燃焼用空気取入部がふさがれたり、こんろ下面が熱くなったりするおそれがあるため、置台を外したまま使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。



禁止

★燃焼筒は正しくセットする

点火操作前に、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しく、しん調節器にセットされているか、燃焼筒のすわりを必ず確かめてください。燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。燃焼中は熱膨張により、燃焼筒が左右に動きづら場合があります。一旦、消火しこんろが充分に冷めてから燃焼筒を左右に動かしてください。マッチで点火した場合は、燃焼筒が正しくセットされていることを確認し、マッチの燃えかすをしん付近やこんろ内に落としたり、置台の上に置かないでください。火災の原因になります。マッチや点火用ライターなどの特に引火性の高いものは、こんろ及びその周囲に絶対に置かないでください。火災の原因になります。



確認

1 安全のために必ずお守りください

警告(WARNING)

★調理中はこんろから離れない

- 煮物等調理したまま、こんろから離れないでください。食材がこげたり燃えたりして火災の原因になります。
- 電話や来客などでこんろから離れる場合は、いったん火を消してください。



★改造使用の禁止

改造して使用しないでください。安全装置の無効化などこんろの安全性を損なう改造は、火災など思わぬ事故の原因になります。



注意(CAUTION)

★燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。



★異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の状態など異常や故障と思われるときは、使用しないでください。事故の原因になります。緊急の場合でもあわてずに、しんを下げたて消火してください。



故障・異常の見分けかたと処置方法 (12ページ) に従って処置してください。

★移動・運搬するときの注意

- こんろを移動する場合は、必ず消火し、こんろの温度が充分下がってから、傾けないように静かに移動してください。
- 修理・引越など、こんろを運搬される場合は、油タンクの灯油を必ず抜いてください。運搬の途中に灯油がこぼれて、周囲を汚すおそれがあります。



★大なべ禁止

- 上面板の外周からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
- 不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。転倒するおそれがあります。



★高温部接触禁止

- 燃焼中や消火直後は、高温部、こんろの上面に手などふれないように注意してください。
- やかんやなべの取っ手は、加熱している場合もありますのでやけどに注意してください。



★高温部に注意

燃焼中や消火直後は、燃焼筒の上部から高温の熱気が出ています。手や顔などを近づけないでください。やけどのおそれがあります。



★煮こぼれ注意

煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。煮こぼれ汁が、しんや感震部にかかると、火が着きにくくなったり、しんが下からなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。



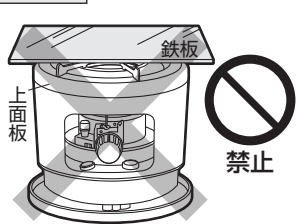
★風にあたる場所で使用禁止

- 屋外や部屋の出入口など、風にあたる場所では使用しないでください。異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 風があたらないように、つい立てを立てる場合は、内部に熱がこもらないように、つい立てをこんろから約15cm以上離してください。



★内部に熱がこもる使いかた禁止

上面板の上に、こんろより大きいなべや鉄板を直接のせて、上面をふさぐような使いかたをしないでください。また、熱源の近くで使用しないでください。内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。



★ほこりの除去

燃焼部周辺や置台、製品内部のほこりをときどき掃除してください。油タンクの下から燃焼用空気を吸い込みますので、紙やビニールなどを入れないように注意してください。ごみ、ほこりが堆積すると、異常燃焼や火災の原因になります。



★安全装置の作動確認

使用開始時と、使用中は1箇月に1回以上、および誤って煮こぼれをした場合は、対震自動消火装置を作動させて、確実に消火することを確かめてください。確実に消火しないときは使用しないで、すぐに修理してください。



★純正部品の使用

しんなどの部品は、必ずトヨトミ純正部品(指定された部品)を使用してください。純正部品を使用しないと、こんろの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。



お使いになる前

1 安全のために必ずお守りください

△ 注意 (CAUTION)

★不良灯油使用禁止

変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼や故障（しんが下がらない、点火できない、火が消えない）の原因になります。
 (燃料 5・6ページ参照)



禁止

★点火前の注意

使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って、点火してください。しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。



注意

★分解修理の禁止

故障、破損したら使用しないでください。不完全な修理は危険です。



分解禁止

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、こんろの取扱い、部屋の換気、高温部への接触によるやけどなどについて、周囲の人が十分に注意してください。



指示

★保管時にしていただくこと

- 長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜いてください。傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。火災のおそれがあります。(保管 13ページ参照)
- しんの手入れ(から焼クリーニング)は、風が当たる場所ではおこなわないでください。火災のおそれがあります。



指示

★廃棄するとき

こんろを廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を抜き取ってください。(保管 13ページ参照)
 灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、思わぬ事故が発生するおそれがあります。



指示

★次の場所では使用しない

火災や予想できない事故や故障の原因になります。

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しい所では使用しないでください。対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりした安定した場所で使用してください。
- 移動車両の中や、不安定な台の上などで使用しないでください。転落したり、火災になるおそれがあります。

ほこりや湿気が多い場所

- 粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。燃焼用空気を取入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

- 爆発や火災の原因になります。

不安定な物をのせた棚などの下

- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

- 異常燃焼を起こすおそれがあります。

風のアたる場所、部屋の出入口、屋外



使用禁止

- 風のアたる場所や屋外では使用しないでください。炎が出て危険です。掃除機の排気にも注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用しないでください。転倒して事故や火災が起きるおそれがあり危険です。

温室・飼育室など人のいない場所

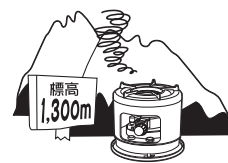
- 使用環境の変化で、火災など予測しない事故が発生するおそれがあります。

船舶や車両、特殊な場所

- 船舶や車両に搭載したり、暖炉や押入れに入れて使用したり、温室や業務用の使用など、特殊な場所での使用はおこなわないでください。火災の原因になります。

高地(1,300m以上の場所)

- 酸素濃度が薄いので異常燃焼を起こすおそれがあります。



お願い (NOTICE)

★灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

★結露に注意

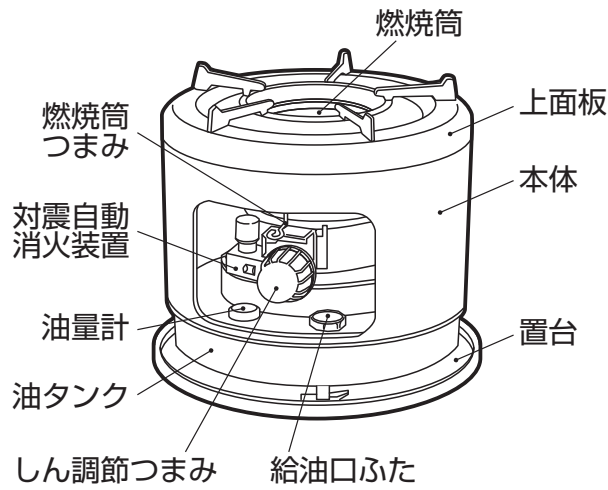
こんろは室内で燃焼するため、気密の高い部屋などでは、換気を充分にしてください。換気をしていないと、壁や天井に結露してカビが発生する場合や、結露によってパソコンや電気機器等に障害が生じるおそれがあります。

2 使用する場所

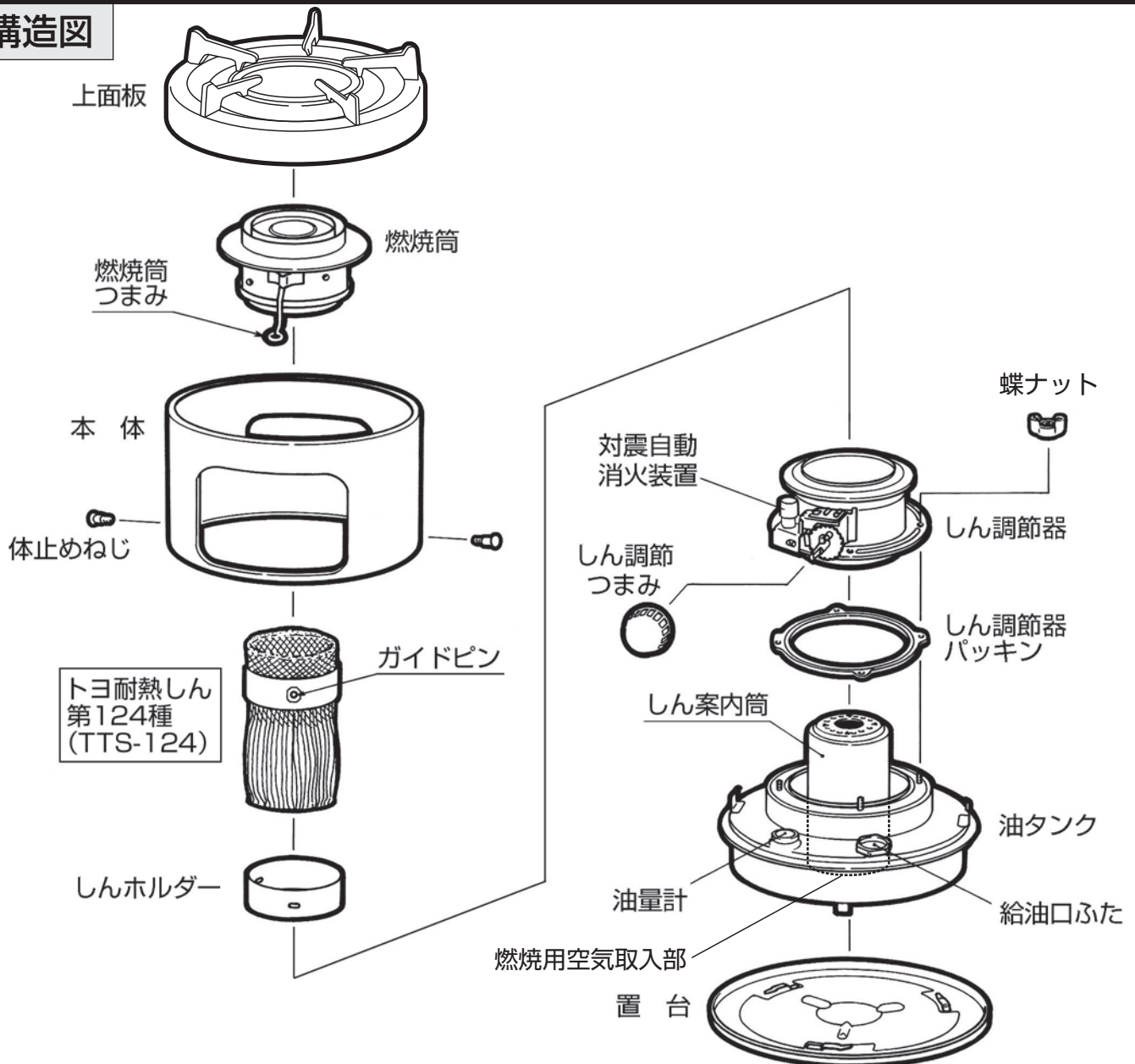
- こんろは、ガスこんろ台などの安定した水平な台の上などに置いてください。人がぶつかったりしない場所に置いてください。

3 各部のなまえ

外観図



構造図



お願い

耐熱しんに、灯油の燃えかす(タール)が多量に付着しますと、しんが下がらなくなったり点火しにくくなったりします。
しんの手入れ (から焼きクリーニング) (11・12ページ)を参照して、しんのから焼きクリーニングをしてください。

4 使用前の準備

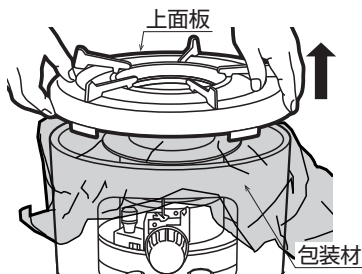
こんろを取り出す

- 1 包装箱から包装材などを取り除き、製品を傷つけないように取り出してください。包装箱や包装材はこんろを保管するときに必要です。取扱説明書も忘れずに保管してください。

お願い

包装材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。

- 2 上面板を取りはずして、包装材を取り除いてください。

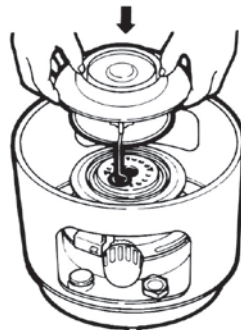


燃焼筒をセットする

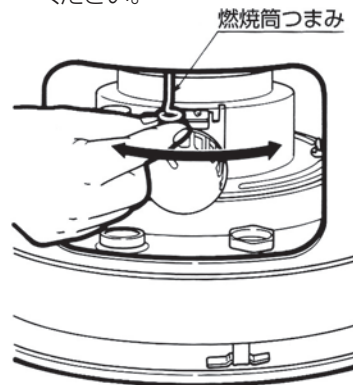
- 1 燃焼筒を、しん調節器の上に正しくセットしてください。

お願い

燃焼筒の端面に手、指などふれないようにしてください。



- 2 燃焼筒つまみを左右に2~3回動かして、しん調節器に正しくセットされているか、しんの上ののっていないかを確認してください。



燃料

危険

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。



- 燃料は灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。
- 不良灯油(変質灯油、不純灯油)は、絶対に使用しないでください。
- 誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときは、あわてずに対震自動消火装置の振り子(感震部)を押して消火してください。

●不良灯油(変質灯油、不純灯油)とは

変質灯油とは

- 昨シーズンより持ち越した灯油。
- 温度の高い場所で保管した灯油。
- 日光の当たる場所で保管した灯油。
- 乳白色のポリタンクで保管した灯油。
- 灯油用ポリタンクのふたが開けてあった灯油。



不純灯油とは

- 水やごみなどが混入した灯油。
- ガソリン、軽油、シンナー、天ぷら油、機械油などが混入した灯油。
- 灯油以外の油を入れたことのある容器に保管した灯油。
- 水抜剤や助燃剤を添加した灯油。



●正しい灯油の保管方法

- 灯油は屋内の冷暗所で保管してください。
- 火気、雨水、ごみ、高温、日光を避けた場所で、保管してください。翌シーズンに持ち越さないようにしてください。
- 紫外線を通しにくい色付きの灯油用ポリタンク(推奨マーク付)を使用してください。乳白色のポリタンク(水用)は使用しないでください。ふたはしっかり閉めて保管してください。但し、灯油は紫外線だけでなく温度でも変質するので推奨マーク付の灯油専用容器でも日なたに放置しないでください。日なたに放置すれば変質灯油になってしまいます。



灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます。火の気のない所でおこなってください。

○ 灯油



濡れたままです。

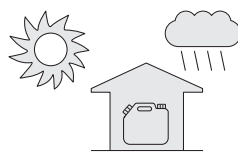
× ガソリン



すぐに乾いてしまいます。

良い保管

直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管。



悪い保管

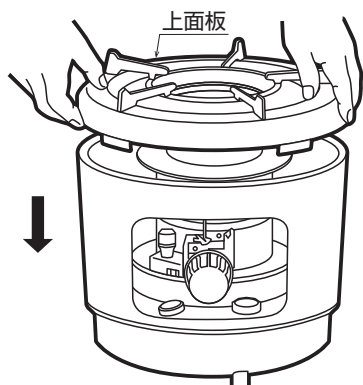
直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管。



4 使用前の準備

置台に固定する

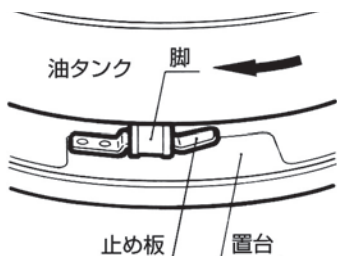
3 上面板を本体の上に水平となるよう確実に取り付けてください。



置台と油タンクを固定してください。油タンク底面の脚を置台の止め板(3箇所)に回して引っ掛け、固定してください。

お願い

必ず置台を取り付けて使用してください。
置台を取り付けて使用しないと、火災など予想しない事故が発生するおそれがあります。



お願い

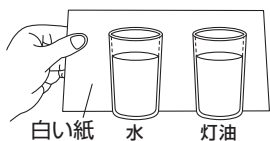
製品の輸送中に生じた燃焼筒の変形、ねじのゆるみや、はずれなどが無いか調べてください。

●不良灯油(変質灯油・不純灯油)の見分けかた

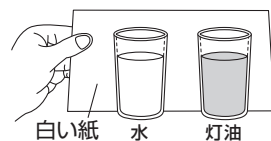
- まずは、灯油が正しい保管状態であったかどうかご確認ください。
- 次に、色で見分ける方法があります。

2つのコップを用意し、片方には水、もう片方には灯油を入れます。その2つのコップの背後に白い紙をあて色を比較し、灯油に色がついていたら、変質灯油の可能性がります。変質灯油になるとうす黄色をおびた色になったり、すっぱい臭いがしたりします。(保管状態によっては、変色していなくても灯油が変質している場合があります。)また、水が混入した不純灯油の場合は、水が下にたまり、灯油と水が分離した状態になります。

保管期間が短く、水と同じ無色透明なら正常。

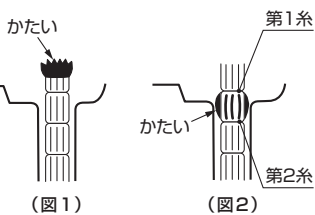


少しでも色がついていたら使用しない。



変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると

- 灯油の程度によりますが、1~30日のご使用でしんの先端(図1)または第1糸と第2糸の間(図2)に多量のタールがたまり、その部分が固くなったり、点火しにくくなったり、炎が大きくならなかったり、激しいにおいがしたりします。また、消火時にしんが下がらず火が消えなくなります。
- 水の混入した灯油を使用しますと、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなったり、しんが上下しにくくなったり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
- ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。



万一変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使ったときの処置のしかた

- 1 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2~3回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。
(悪い灯油が残っていると再発します。)
- 2 11~12ページの「しんの手入れ」を参照して、しんの先端の固くなっている部分を、ラジオペンチなどで軽くつぶしてから、しんのから焼きクリーニングをおこなってください。
- 3 しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。
替えしんについては、販売店までお問い合わせください。

お願い

変質灯油や不純灯油などの不良灯油が原因で、故障した場合の修理については、保証期間中であっても保証の対象外となります。

4 使用前の準備

給油のしかた



警告


★給油時消火

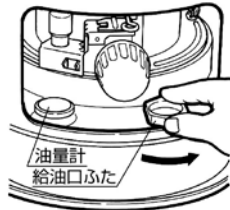
給油は、必ず消火していることを確認して、こんろの温度が十分に下がってから、他に火の気のない所でおこなってください。
火災の原因になります。



消火

1 給油口ふたを開ける。

給油口ふたを、左「」に回して開けてください。



2 油量計を見ながら給油する。


- 市販の給油ポンプの先端を止まるまで軽く差し込んで、油量計を見ながら給油してください。(ホースが抜けないように手で固定しながら給油してください。)
- 灯油は、油量計の「満」の位置まで給油してください。「危」の位置まで入れ過ぎますとあふれ出ることがありますので十分に注意してください。

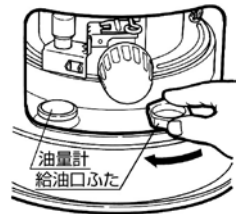


お願い

- オート給油ポンプを使用する場合は、必ず、ホースが給油口から抜けないように手で固定しながら給油してください。
- オート給油ポンプを使用する場合は、油量計を見ながら給油してください。「危」の位置まで入れ過ぎると、あふれ出ることがありますので、十分に注意してください。
- オート給油ポンプ(自動停止装置付)の「満量位置」の調節は、ポンプの取扱説明書に従っておこなってください。

3 給油口ふたをしっかりとめる。

- 給油口ふたを右「」に回してしっかりと締めてください。
- 灯油容器のふたも、しっかりと締めておいてください。



4 こぼれた灯油はよくふき取る。

本体内に灯油をこぼした場合は、よくふき取り販売店にご相談ください。そのまま使用されますと臭気を発生する原因、火災の原因となります。

給油の目安

こんろを使用するときは、ときどき油量計を見て、灯油があるかどうか確認し、油量計の針が「0」を示す前に給油してください。

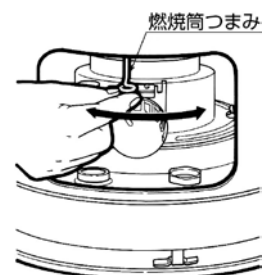
点火前の準備と確認

点火前の確認



- こんろの上方や周囲、置台の上に、布類や紙やマッチなど、可燃物がないことをご確認ください。可燃物があると火災のおそれがあります。
- こんろが水平で安定した場所に設置してあることをご確認ください。

燃焼筒のセットを確認する

点火する前に、燃焼筒つまみを左右に2~3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、燃焼筒のすわりを必ず確かめてください。



対震自動消火装置のセット

しん調節つまみを、「燃焼」の方向()に、ゆっくり止まるまで回しますと、対震自動消火装置が自動的にセットされます。
対震自動消火装置がセットできない場合は、いったんしん調節つまみを「消火」の方向()へ回してからおこなってください。



5 使いかた

点火のしかた

注意

★点火前の注意

使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って、点火してください。
しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。



- 初めてお使いになるときは、点火後、こんろに付着しているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらくお使いいただければ、においはなくなります。
- 点火後しばらくの間は、炎が安定せず、「ポツ、ポツ、ポツ」と燃焼音がありますが、異常ではありません。しばらくすると炎が安定し、音がなくなります。

1 しん調節つまみを「燃焼」の方向へゆっくり回す。

- しん調節つまみを「燃焼」の方向(→)に、ゆっくり完全に止まるまで回してください。(しんが上がります。)
- しん調節つまみが、止まらずに戻ってしまう場合は、いったんしん調節つまみを「消火」の方向(←)へ回してください。回せない場合や硬い場合は、しんにタールがついています。しんの手入れ(から焼きクリーニング)または、新しいしんと交換してください。



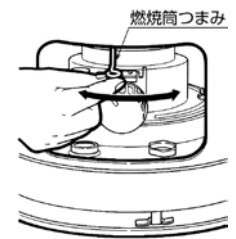
2 マッチや市販の点火用ライターで点火する。

- 燃焼筒つまみを持ち上げ、マッチや市販の点火用ライターなどを使ってしんに火を着けてください。
- マッチや点火用ライターなどの特に引火性の高いものは、こんろ及びその周囲に絶対に置かないでください。火災の原因になります。
- たばこ用のライターでは点火しないでください。
- マッチで点火した場合は、マッチの燃えかすをしん付近やこんろ内に落したり、置台の上に置かないでください。火災の原因になります。



3 火が着いたことを確認し、燃焼筒のセットを確認する。

- 火が着いたことを確認したら、すぐに燃焼筒つまみを左右に2~3回動かして、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上ののっていないかなどの燃焼筒のすわりを必ず確かめてください。
燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。
- 火が着いたことを確認したら、しん調節つまみを少しだけ(点火した火が消えない程度に)消火の方向に回してみ、引っかけなくスムーズにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。
しん調節つまみがスムーズに回らないときは、燃焼筒を持ち上げて、しんを完全に下げた後、点火操作を始めからやり直してください。



お使いになる前に

使いかた

炎の調節のしかた

警告

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が乾燥すると、こんろの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。



炎の調節

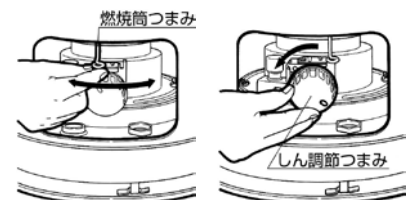
- 炎の調節は、しん調節つまみを回しておこなってください。
- しん調節つまみを回して炎を調節するときは、**炎の状態**のイラストをよく見て、必ず正常燃焼の状態で使用してください。

炎の状態

正常燃焼のときの炎の長さは、拡炎板から0~2cmです。

異常	正常	異常
しんの上げすぎ (拡炎板から黄火が大きく出る状態)	正常燃焼	しんの下げすぎ (拡炎板から炎が出ていない状態)
すずや一酸化炭素が多く発生する	拡炎板から炎が0~2cm出る状態	においや一酸化炭素が多く発生する

- 炎の大きさは上図のように、正常燃焼の状態でご使用ください。
- 点火後、しばらくすると拡炎板から炎が出て、全周ほぼそろいます。
- 部分的に炎の伸びなどがあるときは、燃焼筒つまみを持って左右に軽く2~3回動かしてください。
- 拡炎板から黄炎が大きく出る状態(しんの上げすぎ)のときは、しんを下げて正常燃焼の状態に調節してください。
- 燃焼中は、ときどき炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。しんが上がりすぎていたり、燃焼筒がずれていると、すすが出て、異常燃焼を起こして危険です。



5 使いかた

調理時の注意

警告

★空だき厳禁

なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。
空だきすると内部に熱がこもって火災の原因になります。



★大なべ禁止

- 上面板の外周からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。
内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
- 不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。
転倒するおそれがあります。



★煮こぼれ注意

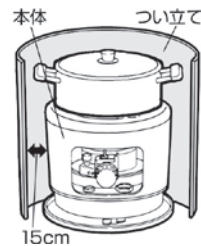
煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。
煮こぼれ汁が、しんや感震部にかかると、火が着きにくくなったり、しんが下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。



注意

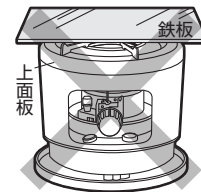
★風のアたる場所では使用禁止

- 屋外や部屋の出入口など、風のアたる場所では使用しないでください。
異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 風がアたらぬように、つい立てを立てる場合は、内部に熱がこもらぬように、
つい立てをこんろから約15cm以上離してください。



★内部に熱がこもる使いかた禁止

上面板の上に、こんろより大きいなべや鉄板を直接のせて、上面をふさぐ
ような使いかたをしないでください。
また熱源の近くで使用しないでください。
内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。



- なべや、やかんをのせたときには、必ず火力の調節をしてください。

なべ等をかけて数分たったら、黄火が出ないようにしん調節つまみを「消火」の方向(↻)に回して、しんを下げ調節してください。

最大火力のまま、なべや、やかんをのせると、炎の出る所がなべ等の底で制限され、火力が余って黄火やすすの出ることがあります。はみだした炎により、なべなどの取っ手が過熱され、やけどや取っ手の焼損の原因になります。

- 燃焼中は、ときどき炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。

- 煮こぼれをしないように注意してください。

- なべの種類によっては、傾いたり、すべりやすいものがあります。不安定な状態では使用しないでください。中華なべなどの底の丸いなべは、必ずなべの取っ手を持ちながら使用してください。

- しんを上げて火力を強くする場合には、炎が一時的にのびて、なべややかんの底にすすがつくことがありますので、ゆっくりとしんを上げて調節してください。



火力を弱くする場合の注意

火力をあまり弱くして、拡炎板から炎の先端が出ていない状態のとろ火で燃焼しますと、こんろ内に熱がこもり、においがしたり、こんろのいたみを早めたりします。またしんにタールが付着し消火時間が長くなります。

5 使いかた

消火のしかた

注意

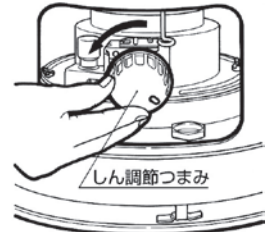
★高温部に注意

消火直後は燃焼筒の上部から高温の熱気がでています。手や顔などを近づけないでください。やけどのおそれがあります。

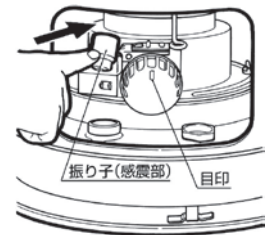


通常の消火の場合

1 しん調節つまみを「消火」の方向へゆっくりと回す。
しん調節つまみを、「消火」の方向(↶)にゆっくり止まるまで回してください。
(速く回すとにおいが出やすくなります。)

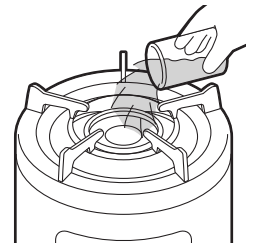


2 消火を確認する。
●においを少なくするため、約1~5分程燃焼(炎が一部残る)して消火します。
●火が消えたことを、必ずご確認ください。
●消火時間が長いときは、対震自動消火装置の振り子(感震部)を押し倒して消火してください。



緊急の消火の場合

- 対震自動消火装置の振り子を押し倒す。**
対震自動消火装置の振り子(感震部)を、押し倒してください。
しん調節つまみの目印が「真上」にあり、火が消えたことを必ずご確認ください。
- このとき急速に消火させるため、「ポツ」と言う消火音と共に炎が伸びたり、すすやにおいが発生することがあります。
- 対震自動消火装置の振り子(感震部)を押し倒しても、しんが下がらず消火できない場合は、しん調節つまみを回して、しんを下げてください。
それでもしんが下がらない場合は、火が消えるまで燃やしきってください。
- 時間に余裕がない場合は、燃焼筒の上にコップ一杯(200ml程度)の水をかけて消火してください。



水をかけると水蒸気が出たりします。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか、手にタオルを巻くなどしてからおこなってください。水をかけたことで、油タンク内に水が入ったり、しんが水を含んだりします。後でメンテナンスが必要です。

しんを下げられない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、しんの手入れ(から焼きクリーニング)(11・12ページ)の項を参照してしんの手入れをおこなうか、新しいしんに交換してください。

お願い

消火後、約5分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気が出たり、点火しないことがあります。

使いかた

お手入れ・保管

6 安全装置

対震自動消火装置

- こんろが地震(震度約5以上)や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。
- しん調節つまみを「燃焼」の方向にゆっくりと止まるまで回すと、自動的にセットされます。
- 地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、灯油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。

お願い

燃焼中に、対震自動消火装置が働いた場合は、消火時のにおいが強く発生します。

7 日常の点検・手入れ

点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

- こんろを消火し、本体の温度が充分に下がってからおこなってください。
- 手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- 対震自動消火装置の取りはずし、分解は絶対におこなわないでください。

使うたびに

点検箇所	点検内容	処置方法
こんろの周囲	●こんろの周囲に可燃物や障害物がありませんか。 [火災の原因になります]	●常に整理、掃除をし可燃物をこんろの周囲に置かないでください。
油こぼれ 油たまり 油にじみ	●油タンク、置台の表面に油がこぼれたり、たまったり、にじんでいませんか。 [火災の原因になります]	●こぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。
油漏れ	●油漏れはありませんか。 [火災の原因になります]	●油が漏れている場合はすぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理依頼をしてください。

1箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
ほこり 燃焼用空気 取入部(しん 案内筒下部)	●置台にほこりがたまっていませんか。 ●油タンクの下の際間に紙やビニールなどが入り込んでいませんか。 [異常燃焼や火災の原因になります]	●置台を取りはずし、たまったほこり、ごみなどを掃除機で吸い取ったり、雑巾などでふき取ってください。
対震自動 消火装置	●しん調節つまみを回してしんを上げてから、置台をゆすると、対震自動消火装置が作動し、そのときしんが下がり、しん調節つまみの目印が「真上」位置に戻りますか。 [確実に消火することを確認]	●しん調節つまみの目印が「真上」にない場合は、しんの項の点検をしてください。 ●販売店に修理をご依頼ください。
油タンク	●油タンクの中に、水やごみがたまっていませんか。 [不完全燃焼したり、火が消えてしまいます]	●給油口ふたをはずして、市販の給油ポンプなどで、油タンクの中の水やごみを吸い出してください。
燃焼筒	●燃焼筒の細かい穴に、燃えかすやすすが付着していませんか。 [異常燃焼の原因になります]	●ブラシなどを使って、燃えかすやすすを取り除き、きれいに掃除してください。
しん	●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。 ●しんに煮こぼれ汁が付着していませんか。 しんにタールが付着していたり、煮こぼれ汁が付着していると、次のような不具合が発生します。 ●消火操作をしても、しんが下がらない。 ●しん上下の操作が重く、スムーズにできない。 ●点火操作をしても点火しない。 ●炎が大きくならなかつたり、燃焼中ににおいがする。	●タールが付着している場合は、しんの手入れ(から焼きクリーニング) (11・12ページ)に従って、しんの手入れをおこなってください。 お願い ●しんの手入れは、風が当たる場所ではおこなわないでください。 ●しんの手入れ中にはにおいがしますので、部屋の換気をしてください。 ●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。

しんの手入れ(から焼きクリーニング)

お願い

- しんの手入れは、風が当たる場所ではおこなわないでください。
- しんの手入れ中は、においがしますので、部屋の換気をしてください。
- しんの手入れ後の使用は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分以上待ってから点火してください。
しんに充分灯油がなじんでいないと、しん上下が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。
- 効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。

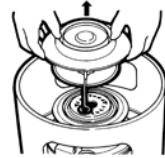
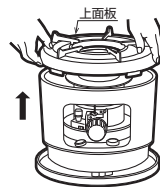
1 油タンク内の灯油を抜き取る。

- 油タンクの給油口ふたをはずし、市販の給油ポンプの吸込側を油タンクに差し込んで、油タンク内の灯油を抜き取ってください。
- 油タンクに水やごみが残ったまま保管すると、錆や油漏れの原因になります。
きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。

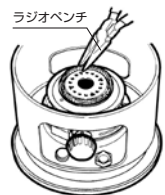


7 日常の点検・手入れ

2 上面板を取りはずし、燃焼筒を取り出す。



3 しんの先端が固くなっているときはラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶす。



4 燃焼筒をしん調節器の上に正しくのせ、上面板を元通りに組み付ける。

5 点火操作をし、正しく燃焼させる。

6 そのまま灯油がなくなり、火力が小さくなるまで放置する。

7 火力が小さくなったら、しんを最大に上げて自然に消火するまで燃焼させる。

8 対震自動消火装置の振り子を押し倒す。

●火が消えたことをご確認ください。

8 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買い求め店、または、修理資格者〔(一財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

9 故障・異常の見分けかたと処置方法—修理を依頼される前に—

故障・異常箇所	現象	点火しない・消えない	炎が大きくなり・消えししまう	赤火や、すぐが出て燃える	消火しない・消えない	においがする	炎がかたよる	しんが下がらない	しん上下の操作が重い	火の回りが遅い	処置方法	参照ページ
しん	しんの出過ぎ。			○		○					しんを下げて、炎を調節する。	8
	しんの出が少ない。	○	○			○				○	新しいしんと交換する。	12
	しんに水を含んでいる。 油タンクに水が入っている。	○	○					○	○	○	しんの手入れをする。または新しいしんと交換する。 油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。	5・6 11・12 ・13
燃焼筒	しんにタールがついている。	○	○		○	○		○	○	○		
	燃焼筒がしんの上ののっている。			○		○	○	○			点火してからすぐに燃焼筒つまみを左右に2～3回動かす。	8
	燃焼筒の変形。			○		○	○				燃焼筒の下部がうまく揃っているかを確認する。 (揃いが悪い場合は販売店に連絡する。)	13
燃料	しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。			○		○	○				しん調節器の上面にタールがついていない、または燃焼筒下部に不揃いがないかを調べる。	-
	灯油が変質している。(汚れた油やポリ容器で1年間持ち越した油など)	○	○		○	○		○	○	○	正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。	5・6
置台	灯油が水やごみを含んでいる。	○	○					○	○	○	正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。	5・6
	置台に、ごみ、ほこりがたまっている。			○							置台を掃除する。	13

この表以外の不具合があるときや、処置方法により処置をしても良くならないときは、使用を中止し、お買い求めの販売店または弊社のお客相談窓口にご相談ください。

10 部品交換のしかた

- しんなどの交換部品は、必ずトヨトミ純正部品(指定された部品)を使用してください。
- 替えしん、燃焼筒などの交換部品が必要な場合は、お買い求めの販売店までお問い合わせください。
- 部品が販売店にない場合は、弊社の「お客様相談窓口」までお問い合わせください。
インターネットでの部品購入は、<https://store.toyotomi.jp/> をご覧ください。

部品交換のときの注意

- ご自分で部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけど、けがなどしないよう注意しておこなってください。
 - ①手をやけどしないように、こんろは消火し、温度が充分に下がるまで待ってください。
 - ②手をけがしないように、手袋をはめてください。
- 不完全な修理は危険です。お買い求めの販売店か、(一財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理依頼されることをおすすめします。

しんの交換のしかた

トヨトミ純正適合しん

トヨ耐熱しん第124種(TTS-124) 商品コード:12012907

しんの交換方法・注意内容は、トヨ耐熱しんに添付されている取扱説明書をお読みください。



検査に合格したしんにはこのマークが貼ってあります。マークの色彩は、白地に赤インクで表示されています。

燃焼筒の交換のしかた

燃焼筒 商品コード:11042706

燃焼筒の構成部品が、変形していたり、燃焼筒の下部がうまく揃っていない場合は、お買い求めの販売店、または弊社の「お客様相談窓口」までお問い合わせください。

11 保管(長期間使用しない場合)

注意

★保管時にしていただくこと

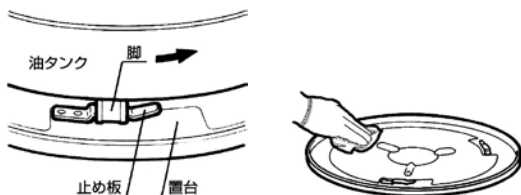
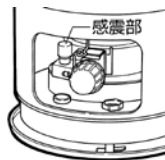
長期間使用しないとまたは保管するときは、必ず灯油を抜いてください。傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。火災のおそれがあります。



お知らせ

油タンクに入っている灯油を完全になくなるまで燃やしていただければ、灯油を抜く必要はありません。

- 1 油タンク内の灯油を抜き取る。
 - 油タンクに水やごみが残ったまま保管すると、錆や油漏れの原因になります。
きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。
- 2 しんの手入れをする。(11・12ページ)
- 3 こんろ内部のほこりや汚れを取る。
 - 感震部やこんろ内部のごみやほこりをやわらかい布できれいにふき取ってください。
 - 錆が多量に発生している場合は、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。
 - こんろ内の煮こぼれなどの汚れは濡れた布でふいて落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。
- 4 置台を取りはずし掃除する。
油タンクを矢印の方向に回して置台を取りはずし、置台の上になまったほこりや汚れを取り除いてください。



- 5 対震自動消火装置を作動させる。
対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。
- 6 収納する。
包装箱に入れ、湿気の少ない場所に保管してください。「取扱説明書」も忘れずに大切に保管してください。

お願い

- 高温多湿、直射日光の当たる場所には、保管しないでください。
錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。
- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

- 灯油は変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない(使いきる)ようにしてください。

12 廃棄するとき

しんの手入れ(から焼きクリーニング) (11ページ)の1項を参照して、油タンク内の灯油を抜き取ってから、各自治体の指導に従って廃棄してください。

13 仕様

型式の呼び	K-324	外形寸法	高さ	333mm
種類	石油こんろ	(置台を含む)	幅	358mm
	しん式・煮炊用・屋内用		奥行	358mm
点火方式	マッチ点火	質量		約6kg
使用燃料	灯油(JIS1号)	しん	種類	普通筒しん
燃料消費量	2.15kW(0.209L/h)			トヨ耐熱しん第124種(TTS-124)
こんろ効率	54%	呼び	内径	105mm
出力	2.15kW	寸法	厚さ	3.2mm
油タンク容量	3.1L		吸上量	150%
燃焼継続時間	約15時間	安全装置		対震自動消火装置(しん降下式)

14 アフターサービス

保証について

- 保証書は販売店で所定事項を記入してお渡しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い求めの日より1年間です。

お願い

次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんのでご注意ください。

- (1) 変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
 - (2) ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかないためにおこった故障や事故。
 - (3) 純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったための故障。
 - (4) 消耗品(しん)の故障。
 - (5) この取扱説明書や、注意書、ラベル類による指示、危険・警告・注意・お願い事項が守られず、誤った使いかたをされた場合の故障や事故。
- その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

修理を依頼するとき

- **故障・異常の見分けかたと処置方法** (12ページ)に従って、処置をおこなってください。直らないときは、使用を中止し、必ずお買い求めの販売店または下記 **お客様相談窓口** に修理をご依頼ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ①品名…石油こんろ
 - ②型式の呼び…K-324
 - ③お買い求め年月日
 - ④故障の状況(できるだけ具体的に)
 - ⑤おなまえ、おところ、電話番号
- 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
- 保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。
- 修理・引越などで、こんろを運搬される場合は、油タンクの灯油を必ず抜いてください。運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

補修用性能部品について

- 石油こんろの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後6年です。
- 補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

消耗・劣化する部品

- 使用期間により、交換・メンテナンスが必要な部品…しん
- 変質灯油、不純灯油などの不良灯油の使用で劣化しやすい部品…しん

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについては、お買い求めの販売店、または、下記 **お客様相談窓口** までお問い合わせください。

株式会社 **トヨトミ** お客様相談窓口

0120-104-154 FAX 052-857-1220

受付時間 平日(月曜～金曜)午前9時～午後5時
(土・日・祝日は除く)

ホームページ <https://www.toyotomi.jp/>

トヨタトミ石油こんろ 保証書

本保証書は、本書記載内容により無料修理をおこなうことをお約束するものです。
お買い求め日から下記期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

型式 K-324	保証期間 お買い求め日より 1 年間	※販売店名・住所・電話番号
※お買い求め日	年 月 日	
※お客様 ご芳名	様	
〒	□□□□-□□□□	
ご住所		
[電話 ()]		

※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は有料修理となりますから必ず確認して、購入証明書(領収書)を保管してください。

【 無 料 修 理 規 定 】

- お買い求め日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容により、お買い求めの販売店または弊社が無料修理致します。
- 無料修理をお受けになる場合は、本書あるいは購入日・支払いを証明するものをご提示のうえ、お買い求めの販売店または弊社にご依頼ください。
なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理をおこなった場合には、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居やご贈答品等でお買い求めの販売店に修理を依頼できない場合は、弊社までお問い合わせください。
- 保証期間内でも、次の場合は有料になります。
 - (イ)取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従わない使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (ロ)お買い求め後の器具の転倒、落下、衝撃・輸送等による故障及び損傷。
 - (ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害その他の環境要因による故障及び損傷。
 - (ニ)指定以外の燃料、または変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用された場合に生じた故障や損傷。
 - (ホ)一般家庭用以外(例えば、温室や業務用の使用、車両・船舶への搭載など)に使用された場合の故障及び損傷。
 - (ヘ)部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
 - (ト)本書にお買い求め年月日・お客様名・販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売等で購入され、それを証明する商品の送り状・支払明細書のご提示がない場合。ネット販売を利用した個人売買品や譲渡品、中古品の修理。
 - (チ)修理のご依頼に際して本書のご提示がない場合。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。
 - この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または、弊社の **お客様相談窓口** までにお問い合わせください。
 - 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書の「アフターサービス」の項をご覧ください。
 - お客様の個人情報、弊社規定により、厳格に管理します。保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

修理メモ

株式会社 トヨタトミ

〒467-0855 名古屋市瑞穂区桃園町5番17号

お客様相談窓口



0120-104-154

受付時間 平日(月曜～金曜)午前9時～午後5時
※土・日・祝日は除く

FAX 052-857-1220

ホームページ <https://www.toyotomi.jp/>